

# 次期基礎調査の情報発信の考え方 基礎調査の成果活用のアウトカムイメージ

- 基礎調査の成果は、一般に向けた普及啓発、行政の施策立案、専門的な研究、環境アセス、企業活動など、多様な利用者によって幅広く利用されており、今後もその利用が一層進むことが期待されている。
- 利用者層と利用目的によって、求められる自然環境情報のレベルや形態は異なる。

## 普及啓発

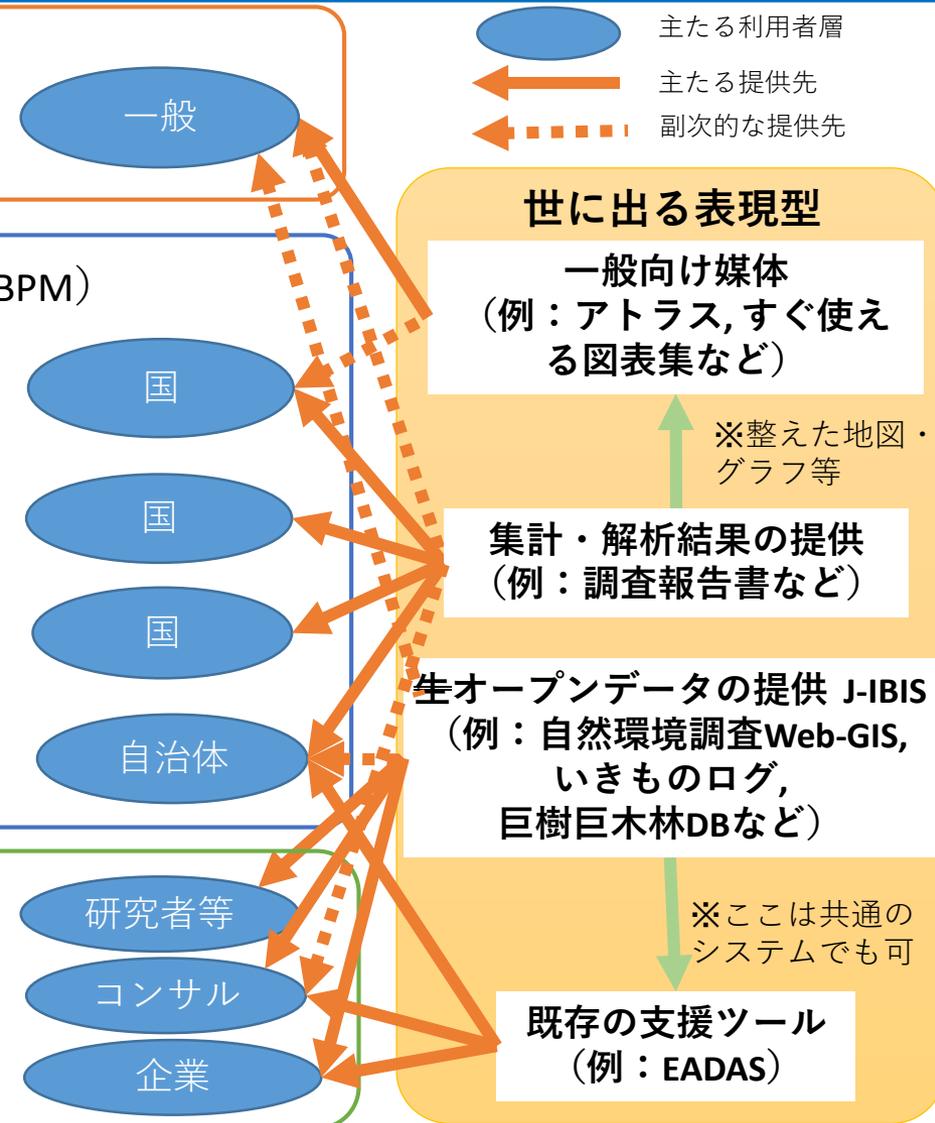
- ・ 保全へ向けた社会の機運醸成  
→教科書やメディアに取り上げてもらう

## 施策立案の支援 (Evidence-based Policy Making: EBPM)

- ・ 自然の状態や変化、施策の効果などの検証  
→国家戦略の指標やJBOへの反映
- ・ これから取り組むべき課題の抽出  
→今後の予算要求、各課施策の打ち出し支援
- ・ 次期基礎調査の設計へフィードバック  
→必要な調査項目・データの洗い出し
- ・ 基礎自治体での施策への反映  
→地域戦略や各計画に引用される

## 自然環境情報の幅広い活用

- ・ 研究者や専門家へのベースデータ提供
- ・ 環境アセスメント迅速化の基礎資料
- ・ 民間企業のCSRやESG投資等におけるデータ活用



# 次期基礎調査の情報発信の考え方 基礎調査成果の情報発信の考え方と発信方法

## ■ 基本的考え方：

- ・ マスタープランに基づき実施された各調査の結果を速やかに公開し、成果の活用促進を目指す。
- ・ マスタープランに基づく次期基礎調査期間内の中間評価やとりまとめの機会を通じ、自然環境情報の利用目的や取扱いスキルが異なる利用者層を想定した適切な情報発信を行う。
- ・ 調査成果のオープンデータ化を推進する。
  - 政府標準利用規約（第2.0版）に基づくとともに、利用状況の追跡（例、DOI：デジタルオブジェクト識別子）を検討する。
  - 自然環境調査等に係る生物多様性情報の整備と発信のガイドライン（以下、ガイドライン）に基づくデータの整備・発信。
  - 関係機関（GBIF/JBIF、S-net等）との情報連携を強化する。

情報発信の考え方	想定される主な対象者	情報発信の例	発信方法
<b>①普及啓発</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保全へ向けた社会の機運醸成に活用</li> <li>・ 調査成果は逐次発信・更新し、自然環境保全基礎調査の認知度を高める</li> </ul>	<b>広く一般的な情報を必要とする層</b> （国民）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査結果のわかりやすいとりまとめ                （とりまとめの機会を利用し、自然環境の現状や保全状況等について伝えたいテーマを設定し、読みやすい資料を作成）</li> <li>○定期的な情報発信                （生物多様性センターニューズレター）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生物多様性センターホームページ</li> <li>○紙媒体（パンフレット、リーフレット） など</li> </ul>
<b>②施策立案の支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然の状態や変化、保全施策・計画等の立案や効果検証、課題抽出等に活用</li> <li>・ 生物多様性分野の経験が浅い自治体担当者でも、簡単な操作で集計や地図化ができる等、わかりやすい方法で発信</li> <li>・ 政策検討や各種計画策定等で利用可能な基盤情報として、自然環境保全基礎調査の認知度を高める</li> </ul>	<b>必要な情報が明確であり、WebGIS等ツールを利用することでデータの意味が理解可能な層</b> （行政関係者等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査結果の可視化                （各調査の報告書、Web-GISを利用した生物分布や他の基盤情報（保護地域等）を地図表示、植生図等の地図タイル化等）</li> <li>○生物多様性の情報の交換・流通                （生物多様性情報クリアリングハウス）</li> <li>○定期的な情報発信                （自治体等向けメールマガジン）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生物多様性センターホームページ</li> <li>○自然環境調査Web-GIS</li> <li>○生物多様性情報クリアリングハウス</li> <li>○メールマガジン</li> <li>○紙媒体（調査業務報告書） など</li> </ul>
<b>③自然環境情報の幅広い活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査研究、環境アセス等に活用</li> <li>・ 自由に集計・解析が可能なデータを提供</li> </ul>	<b>データ解析技術がある層</b> （研究者・コンサル・民間企業等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各調査のデータセット（csv, shpなど）                （各調査で得られたデータをわかりやすいデータセットに整理して公開）</li> <li>○オカレンス情報の整備・公開                （Darwin Coreを基本としたデータ項目の整備・公開）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生物多様性センターホームページ</li> <li>○いきものログ/巨樹・巨木林データベース</li> <li>○自然環境調査Web-GIS</li> <li>○データカタログサイト</li> <li>○S-Net</li> <li>○GBIF</li> </ul>